



入試を前に

2011年も終わり、2012年、「2012年度入試」の年がやってきました。「あけましておめでとう」というのが言霊であるということは何回か説明してきました。「年が明けてめでたいから、おめでとう」ではなく、「先に『おめでとう』と言葉を発することで、それにあう『事』出来事を呼び込む」のだということですね。ですから、「おめでとうは受かってから」などと言わずに、自信を持って「おめでとう」と言い合いたいものです。

言葉にすることの意味は、願いでも、祈りでもありません。言葉にすれば、それは形になるからです。「おめでとう」と決意を持って言葉が発すれば、そこには決意に見合う「行動」がついてくるはずですが、「有言実行」か「不言実行」か、好みは分かれるところですが、弱いところがあるのが人間だとすれば、やはり「有言実行」で、「言葉」を「行動」に変えるべきでしょう。というわけで、試験を前にして、やるべきこと、心に留めるべきことを書いていきます。それでは、一足早いですが、

「あけましておめでとう！」

入試まで残りわずか

いよいよセンター試験まで3週間あまりとなりました。泣いても笑っても、試験の日は確実にやってきます。「気合いだ〜!!」と乗り切りたいところですが、それは試験の始まる直前でいいことであり、あと3週間、あるいは私大、二次まで50日と考えるなら、「気合い」よりは「準備」の方が、何倍も大切です。

先日、駿台の東大受験の情報交換会に参加してきました。最後に示されたデータでは、駿台に在籍した生徒の、模試の成績とセンター、二次の得点の関係が示されました。当然のことといえば当然のことですが、模試で苦手、不安であった科目は、本番でも失敗しています。東大受験者でさえ、そうした相関関係の中にあるのです。

「気合い」などという言葉の前に、まず、やるべきことがあるはずですが。模試の成績を振り返ってみて、苦手な科目、苦手な分野の対策を立てること。それをせずして、「気合いでなんとかする」と言ってみたとところで、どうにもなりません。

単語なのか、文法なのか、長文なのか、はたまた時間配分なのか？理由と原因を特定しながら、対策を立てることが、今、もっとも優先すべきことです。「たぶんなんとかなる」「たまたま悪かった」などという言葉で逃げないこと。「たまたま」であったとしても、原因を放っておけば、その「たまたま」は試験当日にもう一度やってくるかもしれません。

やるべきこと①

模試を振り返り、ふるわなかった科目、分野を洗い出し、原因を特定し、復習や対策を行う

生活の注意

授業がなくなれば、たっぴりと時間を使うことができます。あと3週間と言っても、時間はたっぴりあるといえるかもしれません。

しかし、本番が近くなってくると、いくつか気をつけなければいけないことがあります。第一に起床時間を一定に保ち、9時には学習を始めること。特に午前中のうちに、長時間の、本番に近い演習をいれること、です。

よく、「朝型にする」と言われますが、勉強は一日行うわけですから、その意味では「朝型」も「夜型」もありません。また、記憶型のもの、単語や文法の復習は、記憶を定着する意味でも、夜の方

が向きますし、その復習が次の日の演習で生きるかどうかを確認するという流れも生まれます。逆に、9:00から過去問題などを解く形を作らないと、食事と脳の働きのシミュレーションができません。

脳の栄養は、ブドウ糖です。炭水化物をはじめショ糖など、ブドウ糖につながるものだけが脳のエネルギーとなります。普通に生活していても、朝ごはんを食べた後、11時前には間違いなく、脳はエネルギー不足となり、集中力を欠くようになります。試験のように、脳の働きが最大になれば、もっとエネルギー不足は早くやってくるはずですが。

こうして考えてみると、特に午前中に過去問題などの試験時間のシミュレーションと間食のタイミングを作る練習をする必要がありそうです。

ソフトドリンクなどの糖分が多すぎるものは、逆に血糖値を下げるようにインスリンの分泌が促進され、低血糖を引き起こし、イライラなど集中力の欠如につながりますから、「適度」を探すためにも、朝ごはん→試験→間食（端的に言えば、ブドウ糖そのもの）→試験→昼食、という流れを毎日つくっておきましょう。

やるべきこと②

学校に行く時間に起き、朝ごはんを食べ、9:00には試験を開始する。間食のタイミングを作りながらシミュレーションをする。

メンタル

試験が近づいてくれば、こうした「準備」は、完了しています。準備ができていなくても、もう準備することはできない以上、準備は完了したとみなすしかありません。

まさに「気合い」となるわけですが、誰でも「気合い」は持っているわけで、こうした時にはどのようなことを注意すればいいのでしょうか？

第一に、やってきたことを見る、ということです。コップに入った水を見たとするなら、入っている水を見るということです。裏を返せば、入っていない空白は気にしない、ということです。つまり、試験が直前に迫れば、できることは「今までやってきたことの確認」「今までできたことを100%成功させること」です。練習でできなかったことを本番でやっとうまくいくわけがありません。今まで何度も覚えようとして理解できなかったことが、試験前の10分で身につくわけがありません。（身につく、と思うなら、今から3週間必死にやればいいだけの話です。）できていないものを見て不安になるのではなく、今までやってきたことを、「これもわかる」「これも大丈夫」と復習することが試験の時に必要なことです。

その意味ではもっとも適切なものは、自分が作り込んだノートや、ずっと使ってきた参考書でしょう。それも自信のあるところを復習することがいいでしょう。

第二に、ネガティブな言葉、否定語を発しないことです。最初の、言霊の話ではありませんが、「できない」というイメージは、人間の体を無意識にしばります。「不安な言葉」は、発せられた瞬間、「不安な気持ち」に変わり、「不安な行動」へとつながるのです。

つまり、「気持ちが、言葉や行動を作る」のではなく、「言葉や行動が気持ちを作る」のです。いくら人になぐさめがほしいからといって「大丈夫かなあ」と発すれば、「大丈夫でない行動」が生まれます。「大丈夫」という言葉が「大丈夫な行動」を生むのです。保護者の方も「大丈夫？平気なの？」と聞くのではなく、「大丈夫」と言い切ることが、生徒の自信につながるはずですが。試験に向けて必要なのは「やっていないところが大丈夫か心配すること（大丈夫なわけがなく、だめに決まっています。）」ではなく、「やったところを100%出し切ること」しかないのですから。

やるべきこと③

自分のやってきたことをしっかり復習し、100%出し切ることを目標にする

併原作戦のために

合格を必ずとる！

現役で行くことを希望する人も、ある一定のところではなければ浪人を辞さない覚悟でいる人も、必ず合格をとるようにしましょう。現役で進学する人は当然ですが、浪人をする可能性があったとしても、合格をとることは、現役第一志望校へのはずみをつける意味でも、浪人した時の心の支えを作る意味でも、非常に重要です。

第一志望校へのはずみ、という意味でも、ふたつの大きな効用があります。第一に、第一志望校のためのシミュレーションが必要であること。朝、受験会場に向かい、緊張感の中、試験を受けるというシミュレーションは、慣れる、という意味だけでも、非常に重要です。第二に、合格はうれしいし、不合格は落ち込む、という当たり前のことです。たとえば、文系の上智は比較的早い日程にあります。上智大の発表は早稲田の前にされてしまうわけですが、その間に行われるMARCHの合格発表はまだ行われていません。早稲田を受験する心理として、「MARCHは大丈夫だろう」といかに言い聞かせても、「もしかしたら」と考えるのが受験生の心理です。それが前述のネガティブワードを生み出す土壌になります。したがって、たとえ行く気がなかったとしても、同時期の合格をとるだけで、「自分は惜しいところだった」というポジティブな心理に変わります。序盤に難関大がある人は特に、早めの合格確保がおすすめです。

50%の確率論

では、合格確率をどのくらいで見ていけばいいのでしょうか。「下手な鉄砲数うち当たる」と言いますが、いくら数を撃っても狙わなければ当たりません。地面に向けて撃って当たるわけがないのです。とすれば、ある程度合格確率があるとして、どのくらい撃てばよいか、ということが問題になります。

まず、合格確率が非常に低いケースを考えてみましょう。合格確率が20%という判定があったときに、5校受ければ1校受かるのでしょうか。残念ながら受かりません。受かるとすれば、次の2パターンです。ひとつは、「5回に1回の確率でたまたま失敗した人」です。本来、20%でないのですから、可能性があります。もうひとつは、本番には「勉強を重ねて成績をあげた人」です。この人は本番に関しては、「20%でない」のですから、可能性があります。つまり、合格するためには、あと50日で必死にやって成績をあげることであり、併願作戦などではないのが、この判定帯の人です。

次に、合格確率が50%程度の人を考えてみましょう。合格確率が50%の場合、1校受けるより、2校受けた方が、どちらかに受かる確率は上がりそうです。2校ともおちる確率は1/4、25%です。これを3校に増やしたとするなら、全てに落ちる確率は1/8、12.5%となります。1/4でもだいぶ高い印象ですが、1/8となると、90%の確率で受かるわけですから、3校ぐらいいは受けたい感じですね。

しかし、4校に増やすのはどうでしょうか？確率論でいえば、さらに確立があがり、1/16、95%に近づきます。しかし、3校落ちる確率が10%であったとするなら、3校すべて落ちる人は、実力が足りない確率が高そうです。その人がいくら校数を増やしても、合格はとれるようには思えません。とするなら、チャレンジから標準の同レベル帯の受験校数は、「2校では少なく」「3校程度で」「5校以上は無意味」ということになるのではないのでしょうか。

安全校については、現役志向が強いか、そうでないかで、校数は変わると思います。いくらA判定でも、「絶対現役」となると、体調不良などの不測の事態を考えれば、1校では少ないでしょう。しかし、そこまで「絶対」でなければ、A1校B1校C3校を全滅する確率が限りなく低いことを考えれば、そこまで心配する必要はないでしょう。

以上のように、レベルを考えて「散らす」ことが、非常に重要です。行きたいところばかり選んでも、最終的に進学できるのは1校ですから、4校も5校も同レベルで選ぶのではなく、偏差値帯を散らしながら、受験校を考えることが重要なのです。

入試動向のまとめ

キーワードは、「理高文低」「西高東低」「地元志向」「就職不安＝資格、実学、国際」「安全志向」

今年の全体傾向は、以上のようなものです。順を追って説明していきます。理高文低、資格・実学志向 長引く不況の中、「就職に有利」という選択が多くなっています。したがって、全体的には理系人気が高く、文系の方が指数を減らしてします。人気系統は、特に看護・薬などの資格系統です。文系では教員養成系が人気を集めています。法科大学院は「なれるわけではない＝就職できない」というイメージで人気減。同様に経済系統も不人気ですが、経済と商、経営を比べると、より実学志向の商、経営の方が前年並みで推移しているようです。心理は相変わらずの別格人気。心理学は、白衣を着るイメージなので、カウンセリングや文献で研究するイメージなら、社会科学や教育学を併願することをすすめます。教員養成は人気ですが、中学以上の免許は、

普通の学部でもとれますから、不人気系統の、文学部、(国文、英文、史学)なども併願できると、合格が近づくでしょう。理系の生徒は、全般的に前年より指数があがっていますから、芝浦、MARCHだけでなく、それ以下の大学も、やや厳しめに見ておかないと厳しい結果になりそうです。国際系統は人気、同じ英語でも、実学志向ですから、国際>語学>文学の順になっています。地元志向、西高東低 東日本大震災の影響で、西日本の生徒が関東以北に進まない傾向が顕著です。また、地元国立にとどまるケースも多く、関東私大への流入はあまり多くありません。国立大学については、東北大をはじめ、軒並み、北関東以北の動向は志願者減ですが、センターリサーチ以降、アナウンス効果で変化が起きますので、くれぐれも安易な志願変更はやめてください。

センターと一般

センター利用は非常に厳しい結果に毎年なっています。かりに志願者が減少しても、倍率を維持していることが多く、センターが一般より入りやすくなることはありません。

上位者=センター利用に臆せず、早めに合格を確保することで、国立2次の対策をする時間を確保しましょう。

中位者以下=センター試験で、滑り止めなどと考えず、センターは出願するにしても、一般入試で安全校を作りましょう。絶対に一般の方がやさしいのです。

苦手科目のある者=自分に合うかどうかですが、センターでチャレンジしましょう。理系で数学ⅢC、物理化学Ⅱが苦しいもの→センターはそれぞれⅡB、Ⅰですから、センターの方が合格に近い可能性があります。

マーク模試に強く、記述模試に弱いもの=当然ですが、センターにチャンスがあります。ただし、中堅以下で河合、駿台模試のような記述はありませんから、一般にもチャンスがあるはずなので、過去問題をしっかり検討しましょう。

センター利用には、事前出願(1月14日以前)と事後出願(16日以降)があります。事後出願でも特にリサーチが返ってくる20日以降に締め切りがある大学はボーダーラインが予想よりあがり激戦になります。迷う場合は、事前出願の方が狙えますので、参考にしてください。

今年は中央大学法学部が事前出願に変更となりました。昨年に比べて、ややレベルが下がるはずですし、この影響は一般にもつながるはずですので、志望者は出願を考えてもいいでしょう。

文系は、中堅私大でも、ボーダーが80%強と高く、簡単に合格ラインを越えることはできません。例年、本校の平均点は60%程度ですから、いかにこうした点数を「越える」ことが難しいかわかるでしょう。

それに対して理系は、芝浦工大などのMARCHクラスでも60%台から70%程度で合格がとれることもあり、千葉大などの国公立志望者は狙わない手はありません。もちろん、合格が確保できる保証はありませんから、一般での出願も必須ですが、前述したように数ⅢCなどに弱点があったり、国語などが得意であったりする場合、有利に働くケースも多いので、出願を検討しましょう。センター利用はあくまでチャレンジ!ただし、理系は積極的に利用を!

個別と全学部

それに対して、個別試験と、全学部試験は、さほどのレベル差はありません。どちらかという、個別の方が入りやすい印象ですが、データを追うと、全学の方が入りやすいケースもあり、一概に言えません。

一般的に、全学部日程の方が、早いケースが多く、上位者ほど、早い日程で合格を確保したがるので、全学部の方が難化するケースが多いようです。

また、受験生はデータを見て出願することも多く、前年、簡単だった方を選び、結果として難化する、隔年現象が起きやすいので、必ず3年分ぐらいのデータを見ましょう。

全学部入試では、明治、中央のように学部間併願(一人でいくつの学部に出願できる)を認める大学と立教、法政、青山のように認めないケースがあります。一般論では、認める明治より、認めない立教の方が、全学が易化するようですので、参考にしてください。

全学部と個別の定員配分は変更されるケースも多いようです。定員が減れば難しくなります。全学部は減らされる傾向が強いので、調べてください。

全学部は、別名「地方会場入試」です。地方の優秀者がより集まりやすいという意味では、やは

り難しいと見るべきでしょう。しかし、今年の「地元志向」を考えれば、例年ほど厳しくないような気がします。

芝浦工大の全学部日程は、個別より後で行われるという珍しいケースです。なおかつ、全学日程が理科大の理工とぶつかるため、個別より入りやすくなることが多いです。このあたりの合格を確実にとりたい生徒にはおすすめの日程です。

狙い目・注意となる大学

いわゆる狙い目となる大学や注意となる大学は、第一に定員の増減、第二に日程の移動、第三にキャンパス移転などの学校改革です。このうち、三番目の移転については、受験生に新しいキャンパスが目に見える移転2年以降から人気上昇に転じます。(過去の経験則に過ぎませんが)むしろ、各大学は財政面を重視して定員を確保しに転じますので、合格は出やすい状況ですから、狙い目と見るべきでしょう。

定員増

上智大学は各学部定員増ですので、狙い目ですが、MARCHより入りやすくなるわけではありません。また、上智大学は各系統で入試日程が早いので、その場合、行く気がなくても確実な大学への出願を進めます。上智に対する思い入れが強いならともかく、「定員が増えるからチャンスかな」ぐらいで受けると、早慶上智の上智ですから、厳しい結果になるでしょう。そのときは、早稲田の前に「不合格」を突きつけられるわけですから、それを和らげるためにも、下の大学をとっておくと「きつとぎりぎりだった」と考えられるはずです。

青山学院大学は、文学部比較芸術の新設に伴い定員を減らしていますが、センター廃止や全学の定員を個別に回していますので、法学部をはじめ、いくつかの学部では実質定員増と見るべきでしょう。

定員減

東洋大は700名程度の定員減を行っていますので、注意が必要です。また前述の青山学院は特に文学部では実質減ですので、同様に注意がいきます。

次に全体的な狙い目としては、「MARCH」「日東駒専」などの言葉が定着したために、本来その間にあるべき、成蹊、成城、武蔵、明治学院などがやや不人気になっています。いずれの大学も面倒見がよく、通える範囲内にありますから、検討に値すると思います。1日に明治学院、2日に武蔵、3日に成蹊(全学部は2科目ですので不得意があるひとにはおすすです)と早い日程で全学部がありますので、動向からしても積極的にチャレンジすべきです。

全体的に注意が必要なのは、理系の中堅以下、芝浦工大、東京電機などです。千葉工大あたりでも動向がよく、昨年よりは厳しくなることは間違いありません。上位はともかく、「理科大第一志望層」とっては「芝浦工大」を1校では、前述の「50%の可能性」の話ではありませんが、かなり危険になりそうです。

人気としては、就職が堅調な学習院が挙げられます。明治は、昨年の人気があだとなり、やや減少傾向。明治では、昨年の人気学科が低調で、不人気学科に集中する隔年現象が起きています。MARCHの印象は、文系でM>R>A>C>H、という感じでしょうか。理系では、近い中央や法政の人気は高くなる印象です。

学部別の具体的な注意点

法学部

特に前年からの日程移動はありませんので、一般的な注意になるでしょう。

第一に、2月12日からの日程をどう考えるかがポイントです。

10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日
上智法	中央・国 関法	中央・法	成城	明治 成蹊	早稲田	慶応 法政		青山+1

9日以前は学習院の移動の他は大きな移動はありません。さて、青山はどうして18日に動くのか、ということです。前年のバッティングもありませんし、むしろ、今年は青山の国際政経と同じ日程になっているにも関わらず、です。この日程は、つまり、14日から16日に問題があります。

上位者は、明らかに「明治→早稲田→慶応」か「早稲田→慶応」ですから、このあとに入るのは都合が悪かったわけです。

そう考えてみると、法学部の狙い目は、第一に16日の法政（＝昨年なみですが、立教や青山に比べれば、上位がいません）、第二に、14日の成蹊、13日の成城です。ここは12日の中央からの流れを考えても、休んでおきたい日程になりますので、あえて成城、成蹊で確実に確保するというのは、中位者には良い作戦だと思います。

そのほか、定員増の上智、個別定員増の青山、センター事前出願変更の中央と、法学部の系統不人気と合わせて、大きな変更がないながら、思い切って攻める狙い目がたくさんです。そのためにも中堅以下の合格がほしいところです。

経済・経営・商系統

経済系統は、ひとつの大学でいくつも学科を持っているので、さまざまな併願、バッチィングが生じるので、併願作戦の頭の使うパターンがたくさんあります。また、中央や明治など、こうした学科系統に看板学科を持っていて、君たちが思っているより高くなっている学科がまじるなどの状況もありますので、そうした注意が必要です。

経済系統は2月7日から13日まで、バッチィングがかなり生じますので、MARCHおよびMARCH以下の合格を、チャレンジ、または確実にとるためには、この日程を積極的に受けに行くことが重要です。

7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
上智経営 青山全学 法政経営 明学経済	立教経政 法政経戦 明学経営	上智経済 中央統一 法政国際 経・現ビ	学習院+ 4 明治経営	明治政経	立教経営 法政経済 成城	立教経済 中央経営 成蹊	中央経済	青山経営 中央経済	明治商

前年よりの移動は日程を4日遅らせた学習院。もともとの日程、6日は立教の全学部の日程ですが、ここから明治の経営の方に動きました。

一見してわかるように、7日から13日の間は1日に3校から4校の有力校が集まり、受験生が分散します。日東駒専もここに入るの、そのランクも含めて、確実に合格がとりたい生徒は、こうした日程で、MARCH以下をとりに行くことが重要です。具体的には、7日、8日の明治学院、9日の法政、国際経済・現代ビジネス、12日法政・経済、成城、13日成蹊など、日東駒専ふくめて、狙い目でしょう。立教や明治を受けるな、というわけではありませんが、全学部含めて、明治や立教ばかり4つも5つもという必要があるかはよく考えてください。

この日程の中で、注意が必要なのは、11日の明治・政治経済でしょう。花形学部ですから、他大学がバッチィングを嫌っているのがよくわかります。第一希望やかぎりなくそれに近い生徒はともかく、そうでない生徒はむしろ11日の政治経済よりは、10日の経営の方が狙い目になるでしょう。人気の学習院が動いてきたことを考えると、明治の経営は昨年より易化するとみてよいでしょう。（学習院は立教全学部とのバッチィング解消ですので、易化とはいえないかもしれませんが。逆に立教全学部はバッチィング解消で注意が必要です。）

早稲田の連続日程はいずれの学部も難関です。早稲田の場合、今や商、社会学は偏差値70レベルですし、教育の社会（教員養成系でなく社会科学部）にしたところで、法、政経、社学、商の4つの受け皿になる以上、教育学部の中では心理と並び最難関の学科です。したがって、連続することを考慮しながら、適宜削るしかないでしょう。

文学部系統

文学部は前半にボリュームがありますので、このあたりが狙い目になるでしょう。

5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日
明治全学 法政全学 明学英文	上智文 立教全学 津田-1	青山全学 学習院- 2 法政日文	法政英文 明学仏文	明治国日 中央統一	中央	立教 成城	早大文構 成蹊	明治 青山

移動は一日早めた津田、2日早めた学習院です。それぞれ新たなバッチィングを生じていますから、全体としてどうかは読みが難しいところです。9日の明治・国際日本は、国際系統の人気と合わせて、注意が必要でしょうか。6日の法政は、学習院の人気を考えると易化するような気がしま

す。

狙い目は、11日の成城、12日の成蹊でしょう。それぞれ、立教、早稲田というふたつとバッティングしていますから、上位者がいないと考えると、あえて上位校を避けるのはおもしろい作戦です。立教の全学は、前述したように学部間併願を認めないので、個別との差はあまりありませんし、早稲田の場合、文学部や教育学部、国際教養までありますから、それぞれその大学を諦めることにはなりません。

教育学部系統

日程としての特徴はありませんが、私立で教員養成系が少ないために難化の気配です。判定がふるわない生徒は次の2点を検討しましょう。1、女子であれば女子大を検討する。比較的入りやすい系統が多いし、小学校であれば、出身大学はあまり問われないことが多いと思います。2、他学部を検討する。中学校以上は、普通学部でも免許をとれますので、次善の策として検討してください。

工学部系統

理系は系統別に日程を見るべきですが、系統ごとの大きな動きがあるわけではない（全ての学科が同一日で実施する大学が多い）ので、おおざっぱに見ます。逆に、文系のように、無限の併願パターンがあるわけではないので、レベルによって自動的に決まるようなところがあります。

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日
日本女子 芝浦シス 都市大 電機大	芝浦シス 都市大 電機大	芝浦工 成蹊理工 都市大 電機大	理科理工 芝浦統一 電機大 神奈川	明治全 法政T 電機大	理科理工 法政 立教・理 神奈川	明治 青山全学 神奈川	上智 理科・工 中央 学習院 日大 東洋	上智 理科・工 東洋 日生産工
10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日
青山 理科基工	青山 法政 日大 成蹊	理科・理	理科・理	慶応 法政 東洋	中央	早稲田		理科大 電機大

複数日程が入っていても系統で実施日が違いますので、確実に調べてください。見てわかるとおり、後半は作戦があまりありません。工学系統だとすれば、慶応、中央、早稲田とせめるか、どこかで休みをとるか、慶応の日に法政を攻めるか、というところでしょう。

それに比べて前半はさまざまなバリエーションが考えられます。理系はそもそも昨年より厳しめになることを考えると、この日程を安全校を作りながら攻めることは重要です。

電機大、都市大あたりでも難化する気配ですので、判定が渋い生徒は、このあたりで行きたい大学ばかりを攻める必要はないと思います。興味深いのは、4日で、ここを芝浦統一入試で攻めると、個別よりも入りやすくなりまし、もっと厳しい生徒はここで電機大や神奈川大に行く手もあるでしょう。理科大の理工が受けられなくなる系統もありますが、芝浦も厳しい層であるとするなら、10日に理科大の基礎工があります。1年間は長万部で帰ってくると新しい葛飾キャンパスです。この基礎工の1年間の長万部は非常に評判がよく、みな充実した楽しい1年を送るようです。

理系の場合、ある程度のレベルに達していない場合、芝浦、中央、法政、明治、青山、理科大あたりが同じような偏差値でまとまっているので、「芝浦でおさえ理科大理工」などというように考えるのはやや危険です。偏差値帯を見ながら、50%確率であるなら2校から3校に増やしていかないとギャンブルになる確率が高いと思います。早慶に判定がついている上位者はともかく、理科を1科目に絞っている生徒は、慎重な併願作戦が必要です。

複線入試

苦手科目がある生徒は、配点情報や複数の選抜方式がある大学、複線入試をしっかりと調べましょう。成蹊の全学部、法政、青山など、そこそこの大学で、2科目や1科目で受けられる大学もあり

ます。当然のことながら、科目数が減れば減るほど、レベルは上がりますが、それでも大きな苦手科目がある生徒、ものすごい得意科目がある生徒は、見逃すべきではありません。研究を重ねて、有利に受験を進めましょう。

また、大学によって、配点は異なります。また、問題との相性もありますし、合格最低点も大きく異なります。くれぐれも資料をみながら、受験日程を決めましょう。

調査書について

12月22日までに申し込んだものは1月7日に渡せます。

7日以降は随時渡せます。早ければ即日発行もできますが、先生ときちんと約束しておかないと入試などで登校できないときがあります。注意しましょう。

大学名がわからない段階では調査書は出せません。確定してから申込みましょう。また、急な変更で使わなくなった場合、こちらで違う大学に変更することは可能です。担任に相談してください。

登校について

1月の登校は選択した特別授業とLHRです。それぞれ、遅刻、欠席のカウントがありますし、情報を聞き漏らさないためにもきちんと登校しましょう。

1月7日 始業式・LHR 特別授業開始

1月13日(金) センター受験者8:45 LHR10:55

1月16日(月) センターデータリサーチ8:45 遅刻すると集計できません。

1月26日(木) LHR8:45

2月以降の登校日 2日、9日、15日、23日、27日

※それ以外の日も、質問や面談ができるように講師の先生方も含め準備しています。

※試験にともなう欠席は公欠となりますが、それは受験先一覧および調査書の申請をもとに行いますので、連絡をせず、欠席をすると、公欠とできない場合があります。

30期学年目標

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

身につけるべき力

目標から「逆算」する力

やるべきことを「具現化」する力

他者を「理解」し、「理解される」力

夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。